

ISSN 0917-3692

国語教育論叢

福田景道先生 退職記念号

第 27 号

2020 年

島根大学教育学部国文学会

国語教育論叢

第二十七号

二〇二〇年

福田景道先生
退職記念号

島根大学教育学部国文学会

福田景道先生退職記念



福田景道先生近影

献呈の辞

福田景道先生には、令和二年三月末日をもって、定年を迎えられる。先生は平成二十四年度から令和元年度まで、長く島根大学教育学部国文学会の会長をつとめられた。ここに記念号を献呈し、これまでのご教導に対する心からの感謝の念を表したい。

先生は、岡山県津山市でお生まれになり、東北大学文学部、同大学院文学研究科で学ばれ、秋田短期大学にお勤めの後、昭和六十二年十月に島根大学教育学部に着任された。それから三十二年余りの長きにわたり、教育・研究に尽力され、多くの人材を育成してこられた。

先生のご専門は、日本文学、特に『栄花物語』『大鏡』『増鏡』などに代表される歴史物語作品群を中心とした、古代中世の歴史文学の研究である。門外漢の小生にはその学術的意義に言及する資格はないが、先生が繁忙な業務の間にも、孜孜として歴史文学の研究に勤しまれたことは、本号に収録された著作目録が、それを雄弁に物語っている。学術論文のうち、『大鏡』を論じた最初の論文から『増鏡』および『梅松論』を論じた最新の論文に至るまで、一貫した構想にもとづく揺るぎのないご研究の姿勢がうかがわれる。

これらの日本文学研究と同時に注目されるのは、日本古典文学教育にかかわるご業績である。平成二十年代以降、新たに登場してくるこれらの論考は、先生のご研究を特色づけるものであり、昨年の八月に開催された国文学会研究発表会におけるご講演の演題「文学研究と大学教育―国文学教育の三十年―」からも、文学研究と文学教育とをご自身のお仕事の二つの柱として位置づけておられたことが察せられよう。

一方、管理運営の面では、講座主任（コース代表）として、長年にわたって国語教育研究室、言語文化教育講座、国語教育コースの運営に当たられた。とくに国語教育コースと英語教育コースとの二つのコースで構成される新たな講座として、平成十六年度からスタートした言語文化教育講座の意義を明らかにするために、「国語・英語の両コースおよび附属学校の教員による共同研究を計画・推進された。その成果は「言語コミュニケーション教育の研究と開発」（『島根大学教育学部紀要 第四十四巻別冊』平成二十三年）および「体系的言語教育における広域型研究と実践―教科内容研究と授業デザイン―」（『島根大学教育学部紀要 第四十八巻別冊』平成二十七年）の二つの別冊特集号として刊行されている。

さらに学部の研究・評価プロジェクト、研究・国際交流室 研究・評価部門の部門長として、学部全体の研究の推進にもその手腕を発揮された。とりわけ教科専門領域を横断する教科内容学にかかわる研究の推進に尽力されたことは、特筆に値する。

思えば、先生が講座主任（コース代表）の任に当たられたご在職中の後半期は、平成十六年度の国立大学法人化施行と相前後して、数次にわたる学部・大学院の改組など、現在も続く改革の嵐に突入した時期であった。その荒波の中にあつて、先生は研究室の舵取りをされ、研究者・教育者として自らが如何にあるべきか、学生や社会に対して何をなすべきかを真摯に問い、その実現のために努力を重ねてこられたのである。

先生は接する人に対して常に、少しはにかみを含んだ温和なまなざしを向けられ、何事にも公平・公正に対処された。先生のご退職は寂しく、心細さを禁じ得ないが、国語教育研究室と国文学会を守り発展させていくことこそ、これまでのご教導に対するご恩返しに他なるまい。

先生が無事にご定年を迎えられたことを、あらためてお慶びするとともに、これからのご健勝を心からお祈り申し上げます次第である。

令和二年二月三日

福田 哲之

II

国語教育論叢 福田景道先生退職記念号 目次

福田景道先生近影

献 辞

福田景道先生略歴

福田景道先生研究業績

国語科教育と教育専門 ―「国語科内容構成」授業の行方―……………福田 景道…九

日野啓三『東京タワーが救いだつた』論 ―「リアリティー」の転換―……………山根 繁樹…二一

「卵」と「玉子」 ―同訓異字についての試論―……………山村 仁朗…三三

安岡章太郎「陰気な愉しみ」論 ―社会との距離……………田中 俊男…四五

万葉集における類歌と複合動詞形成 ―動詞「過ぐ」を中心に―……………百留 康晴…五九

「情報処理」を取り入れた説明文の授業 ―増井光子『動物の体と気候』―……………岡 卓志…七三

「教材研究の手びき」(中学校古文教材)を用いた教育実習事前指導

―中学校実習(国語科)における古文教材研究のために―……………田中 耕司…九一

III

教育実習生の事後的省察を支援する方法についての考察

―事後指導における協同的な活動の批判的検討を通して―

富安 慎吾 … 一〇七

『漢書』芸文志所載『蒼頡伝』考

福田 哲之 … 一二三

鉄砲伝来紀功碑文の成立

湯浅 邦弘 … 一三九

重野安繹と中井木菟麻呂 ―『黄裳斎日記』を中心に―

竹田 健二 … 一五七

説明的文章の読解指導における「論理」に関する学力像の更新

―中学校・高校段階を中心に―

間瀬 茂夫 … (1)

編集後記

一八六

福田景道 略 歴

- 一九五四(昭和二九)年 岡山県津山市に生まれる
- 一九七八(昭和五三)年 東北大学文学部国文学科卒業
- 一九八〇(昭和五五)年 東北大学大学院文学研究科博士課程前期課程修了
- 一九八三(昭和五八)年 東北大学大学院文学研究科博士課程後期課程退学
- 一九八三(昭和五八)年 秋田短期大学講師
- 一九八七(昭和六二)年 秋田短期大学助教授
- 一九八七(昭和六二)年 島根大学教育学部助教授
- 一九九九(平成一一)年 島根大学教育学部教授
- 二〇二〇(令和一二)年 島根大学教育学部 定年退職

福田景道 研究業績

I 学術論文

- 1 『大鏡』「大臣列伝」における栄華の実現―外戚関係と子孫繁栄―
『日本文芸論叢』(東北大学国文学会) 第1号 昭和57年3月
- 2 『増鏡』の世界―「皇位継承」の意義をめぐって―
『日本文芸論叢』(東北大学国文学会) 第2号 昭和58年3月

- 3 『大鏡』における藤原忠平の栄華
『日本文芸論稿』（東北大学文芸談話会）第12・13合併号
昭和58年7月
- 4 『大鏡』「大臣列伝」の考察―冬嗣流藤原氏「正系」決定過程をめぐって―
『論叢』（秋田短期大学）第35号
昭和60年3月
- 5 『大鏡』「太政大臣道長（上）」後半部の性格
『論叢』（秋田短期大学）第37号
昭和61年3月
- 6 『水鏡』構想論序説―政治史的側面と『大鏡』の継承―
『論叢』（秋田短期大学）第38号
昭和61年11月
- 7 『大鏡』構想の二重性をめぐって
『文藝研究』（日本文芸研究会）第116集
昭和62年9月
- 8 『栄花物語』・『大鏡』における登場人物の系譜（二）―歴史物語生成論の前提として―
『論叢』（秋田短期大学）第40号
昭和62年11月
- 9 『大鏡』の構想と皇位継承過程―「正統」の確定と顕在化―
『島大国文』（島大国文会）第17号
昭和63年11月
- 10 『大鏡』の編年史的側面―『栄花物語』の克服と追認―
『島根大学教育学部紀要』人文・社会科学第22巻第2号
昭和63年12月
- 11 『今鏡』に描かれる藤原道長の栄華―残映としての『大鏡』―
『島大国文』（島大国文会）第18号
平成元年11月
- 12 『大鏡』における藤原道長の理想性・序説―栄華の相対的評価をめぐって―
『島根大学教育学部紀要』人文・社会科学第23巻第2号
平成元年12月
- 13 古典教材としての『大鏡』の特異性
『教科教育研究論集』（島根大学教育学部）第4集
平成2年3月
- 14 『増鏡』における過去と現在―「先例」の機能について―
『島根大学教育学部紀要』人文・社会科学第24巻第2号
平成2年12月
- 15 『増鏡』にみられる宮廷貴族諸流の盛衰―外戚から近臣へ―
『国語教育論叢』（島根大学教育学部国文学会）第1号
平成3年9月
- 16 『増鏡』の基調―二家系対照と明暗循環の構図―
『文藝研究』（日本文芸研究会）第128集
平成3年9月
- 17 歴史物語の系譜と『増鏡』―継承性と自律性の観点から―
『島大国文』（島大国文会）第20号
平成3年12月
- 18 『増鏡』と両統問題
『島根大学教育学部紀要』人文・社会科学 第25巻
平成3年12月
- 19 『増鏡』と隠岐
『山陰地域研究』（島根大学山陰地域研究総合センター）第8号
平成4年3月
- 20 『増鏡』の予言記事をめぐって
『島根大学教育学部紀要』人文・社会科学 第26巻
平成4年12月
- 21 『増鏡』の非政治的記事について―皇位継承史的性格の考察―
『島大国文』（島大国文会）第21号
平成5年3月
- 22 歴史物語の範囲と系列（上）
『島根大学教育学部紀要』人文・社会科学 第27巻第1号
平成5年12月
- 23 『増鏡』の構想に関する一考察―同趣事象の反復と明暗反転―
『菊田茂男教授退官記念 日本文芸の潮流』（おうふう刊）
平成6年1月
- 24 『秋津島物語』の輪郭―「歴史物語の範囲と系列」補説―
『国語教育論叢』（島根大学教育学部国文学会）第4号
平成6年2月
- 25 歴史物語の範囲と系列（下）
『島根大学教育学部紀要』人文・社会科学 第27巻第2号
平成6年3月
- 26 歴史物語としての『梅松論』
『島根大学教育学部紀要』人文・社会科学 第28巻
平成6年12月

- 27 『梅松論』の基幹構想―「將軍」と「正統」―
『島大國文』（島大國文会）第23号
平成7年2月
- 28 歴史物語の「大臣」（上）
『島根大学教育学部紀要』人文・社会科学 第30卷
平成8年12月
- 29 大鏡研究史
『大鏡』（歴史物語講座第3卷）（風間書房）
平成9年2月
- 30 歴史物語と「先坊」―「大鏡」「今鏡」「増鏡」を中心として―
『島大國文』（島大國文会）第25号
平成9年2月
- 31 中世歴史物語と摂政関白―『五代帝王物語』と『増鏡』を中心として―
『国語教育論叢』（島根大学教育学部国文学会）第6号
平成9年3月
- 32 中世における歴史叙述と通史教育
『日本文学』（日本文学協会）第46巻第7号
平成9年7月
- 33 水鏡の思想
『水鏡』（歴史物語講座第5巻）（風間書房）
平成9年8月
- 34 歴史物語の「大臣」（中）
『島根大学教育学部紀要』人文・社会科学 第31卷
平成9年12月
- 35 『太平記』と歴史物語
『太平記の成立』軍記文学研究叢書第8巻（汲古書院）
平成10年3月
- 36 不老長寿の意義と物語の世界―竹取の翁と夏山繁樹―
『福祉文化』（島根大学教育学部福祉文化研究会）第1号
平成13年3月
- 37 長寿と幸福―「大鏡」世界の栄華をめぐって―
『福祉文化』（島根大学教育学部福祉文化研究会）第2号
平成15年2月
- 38 幸福な結末―御伽草子と王朝物語―
『福祉文化』（島根大学教育学部福祉文化研究会）第3号
平成16年3月
- 39 『梅松論』の皇位継承史構想―後堀河院・後嵯峨院・光厳院の正統性―
『国語教育論叢』（島根大学教育学部国文学会）第14号
平成17年3月
- 40 天理本『梅松論』の歴史構想―正確性と精密性の追求―
『島大國文』（島大國文会）第32号
平成20年3月
- 41 虫めづる姫君の異能性
『島根大学社会福祉論集』第2号
平成20年3月
- 42 世代間コミュニケーションと歴史教育―歴史物語『梅松論』の継承と変容―
『島根大学教育学部紀要』第42巻別冊
平成21年2月
- 43 歴史物語の語り手設定の継承と展開
『島根大学社会福祉論集』第3号
平成22年3月
- 44 言語コミュニケーションと日本古典文学史教育
『島根大学教育学部紀要』第44巻別冊
平成23年2月
- 45 『月のゆくへ』の輪郭―粹物語形式の継承と変容―
『島大國文』（島大國文会）第33号
平成23年3月
- 46 散佚歴史物語『弥世継』の研究
『島根大学教育学部紀要』第45巻
平成23年12月
- 47 日本古典文学教育と教科内容学
『島根大学教育学部紀要』第45巻別冊
平成24年2月
- 48 近世歴史物語としての『月のゆくへ』―宮廷貴族の補任記事をめぐって―
『国語教育論叢』（島根大学教育学部国文学会）第21号
平成24年3月
- 49 『池の藻屑』研究序説―歴史物語の系列化と粹物語構想―
『島大國文』（島大國文会）第34号
平成26年1月
- 50 古典文学教材としての『竹取物語』―教科内容学からの授業デザイン―
『島根大学教育学部紀要』第48巻別冊
平成27年2月

- 51 歴史物語の基軸としての「世継三作」―「先坊」の設定とその継承をめぐつて―
『王朝歴史物語史の構想と展望』（新典社）
平成27年3月
- 52 『池の藻屑』の皇位継承史構図―編年史的側面と「世継」―
『島大國文』（島大國文会）第35号
平成27年3月
- 53 歴史物語における不即位東宮―「先坊（前坊）」再考―
『島根大学教育学部紀要』第49巻
平成27年12月
- 54 『増鏡』と『梅松論』の歴史性と文芸性―「横さま」と「横シマ」の皇位継承をめぐつて―
『歴史叙述と文学』（国文学研究資料館共同研究報告書）
平成29年3月

Ⅱ その他

- 1 〔書評〕西沢正二『増鏡』研究序説
『文藝研究』（日本文芸研究会）第104集
昭和58年9月
- 2 『増鏡』における隠岐
『隠岐流人に関する研究』（平成2年度科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告書）
平成3年3月
- 3 〔書評〕加納重文著『歴史物語の思想』
『古代文化』（財団法人古代学協会）第46巻第2号
平成6年2月
- 4 歴史物語の系譜に関する研究
（平成4・5年度科学研究費補助金（一般研究C）研究成果報告書）
平成6年3月
- 5 大鏡研究文献目録（共著）
『大鏡』（歴史物語講座第3巻）（風間書房）
平成9年2月
- 6 歴史物語と物語文学の相関に関する研究
（平成6～8年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書）
平成9年3月
- 7 今鏡研究文献目録（共著）
『今鏡』（歴史物語講座第4巻）（風間書房）
平成9年4月
- 8 栄花物語研究文献目録（共著）
『栄花物語』（歴史物語講座第2巻）（風間書房）
平成9年5月
- 9 水鏡研究文献目録（共著）
『水鏡』（歴史物語講座第5巻）（風間書房）
平成9年8月
- 10 増鏡研究文献目録（共著）
『増鏡』（歴史物語講座第6巻）（風間書房）
平成9年11月
- 11 大鏡
『日本古典文学研究史大事典』（勉誠社）
平成9年11月
- 12 今鏡
『日本古典文学研究史大事典』（勉誠社）
平成9年11月
- 13 増鏡
『日本古典文学研究史大事典』（勉誠社）
平成9年11月
- 14 歴史物語研究文献目録（共著）
『総論編』（歴史物語講座第1巻）（風間書房）
平成10年3月
- 15 〈中世〉歴史文学
『文学・語学』（全国大学国語国文学会）（第16号）
平成10年9月
- 16 増鏡（共著）
『歴史物語（栄花物語・大鏡・今鏡・水鏡・増鏡）』CD-ROM（岩波書店）
平成15年3月
- 17 〔書評〕勝倉壽一著『大鏡の史的空間』
『文藝研究』（日本文芸研究会）第162集
平成18年9月
- 18 『基幹研究「王朝文学の流布と継承」』（共著）
（国文学研究資料館研究成果報告書）
平成23年3月

- 19 言語コミュニケーション教育の研究と開発プロジェクトの活動
『島根大学教育学部紀要』第44巻別冊
平成23年2月
- 20 「教科内容構成研究」授業の現状と課題（共著）
『島根大学教育学部紀要』第45巻別冊
平成24年2月
- 21 幻の「弥世継」をさがす―世継物語（歴史物語）の継統と変転―
『古典籍研究ガイドランス―王朝文学をよむために』（笠間書院）
平成24年6月
- 22 体系的言語教育における広領域型研究と実践プロジェクトの活動
『島根大学教育学部紀要』第48巻別冊
平成27年2月
- 23 教員養成系学部における国語教育と英語教育の研究連係―広領域型言語文化教育研究の針路―
『島根大学教育学部紀要』第48巻別冊
平成27年2月
- 24 緒言／研究概要
『歴史叙述と文学』（国文学研究資料館共同研究報告書）
平成29年3月
- 25 〔書評〕雲岡梓著『荒木田麗女の研究』
『國語と國文學』（東京大学国語国文学会）第95巻第10号
平成30年10月

編集後記

▽福田景道先生は、昭和六十二年（一九八七）十月に秋田短期大学より国文学担当として島根大学にご着任になりました。以来三十二年半もの長きにわたり教育学部・教育学研究科にお勤めになり、その間に優れた研究成果を多数発表され、また数多くの学生の指導に熱心にあたられました。同時に、専攻主任・コース代表等として研究室・学部等の運営に御尽力くださり、幾度か行われた学部改組等に対しても、実に真摯に取り組まれました。

▽我が島根大学教育学部国文学会におきましても、平成二十三年（二〇二一）より会長をお務めいただきました。長年のご指導に対し深く感謝申し上げます。暫時休刊となっておりました本誌を、先生のご退職記念号として編集いたしました。福田景道先生の今後益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

▽本号の執筆者の皆様には、本号の刊行に格別の御支援を賜りました。重ねて厚く御礼申し上げます。

（竹田 記）

国語教育論叢第二十七号

二〇二〇年二月二十九日 印刷発行

発行者 島根大学教育学部国文学会

（代表 福田 哲之）

事務局 〒690-8504 松江市西川津町一〇六〇

島根大学教育学部言語文化教育講座

Tel. 〇八五二一三三一六一〇〇（代表）

（振替口座 〇一四〇〇一九一五一一七）

印刷所 島根県浜田市相生町三八八九

柏村印刷株式会社